

家族を救った税金

板橋区立志村第三中学校 3年 佐々木 蘭

私には、「超低出生体重児」として生まれてきた妹がいます。通常の赤ちゃんは約3,000グラムで生まれるのですが、妹はその約4分の1の840グラムで生まれてきました。そのため、生まれたばかりの頃は命も危なかったのですが、手術やNICUでの治療のおかげで命は助かり、右手と右足に少し障害は残ってしまいましたが、今では普通の人とほとんど変わらない生活を送っています。

妹を救った手術などの治療は、莫大な費用を必要とする、とても高度なものだったのですが、「未熟児養育医療制度」という制度のおかげで、それらを無料で受ける事ができたそうです。母に妹の生まれたばかりのときのことや、この制度についてどう思っているのかを聞いてみると、「命も助かるかわからない。もし命が助かったとしても、なにか障害が残るかもしれない。と医師に言われてとても不安だった。命を助けるための手術や、その先の治療にかかる費用も莫大なものだったから、未熟児養育医療制度があって本当によかった。」と、この制度にとっても感謝をしていました。妹の命、そして家族を救った「未熟児養育医療制度」について、「もっと知りたい」と思い、調べることにしました。

この制度は、身体の発育が未熟なまま生まれたときや、体重が2,000グラム以下で生まれたときなどに適用される制度です。治療が必要な赤ちゃんたちはNICUで治療をします。1日入院するだけでも約10万円かかり、病気や赤ちゃんの状態によっては何ヶ月間も入院をします。そのため、入院させた日数だけ費用がかかり、負担は大きくなっていってしまいますが、未熟児養育医療制度を適用することで、これらの医療費を全額、または一部支援してくれます。

この制度で、負担をしなくてもよくなった分のお金は、どのようにして支払われているのでしょうか。それは、いつも日本国民が何気なく払っている、消費税や所得税などの税によって集められた「公費」によって支払われています。

この作文を書くまでは「なんで税金があるんだろう。なければ自分の好きなことにもっとお金をかけられるのに。」と税金をあまり良いものだとは思っていませんでした。しかし、この作文を書くため、色々調べていくうちに、税金は国民が幸せに暮らすためにあるのだと思いました。私の家族を救った未熟児養育医療制度も、税金によるものだと知り、税金のありがたみを痛いほど感じさせられました。

昔の私のように、税金に対してプラスに考えていない人の方が、世の中には大勢いると思います。けれども、その税金で、私の家族を含め、多くの方が助けられています。あなたが払った税金も、あなたや、あなたの大切な人、あなたではない他の誰かを救い、幸せにしているはずですよ。